

齋藤完一さん【千葉県】

VOICE #51

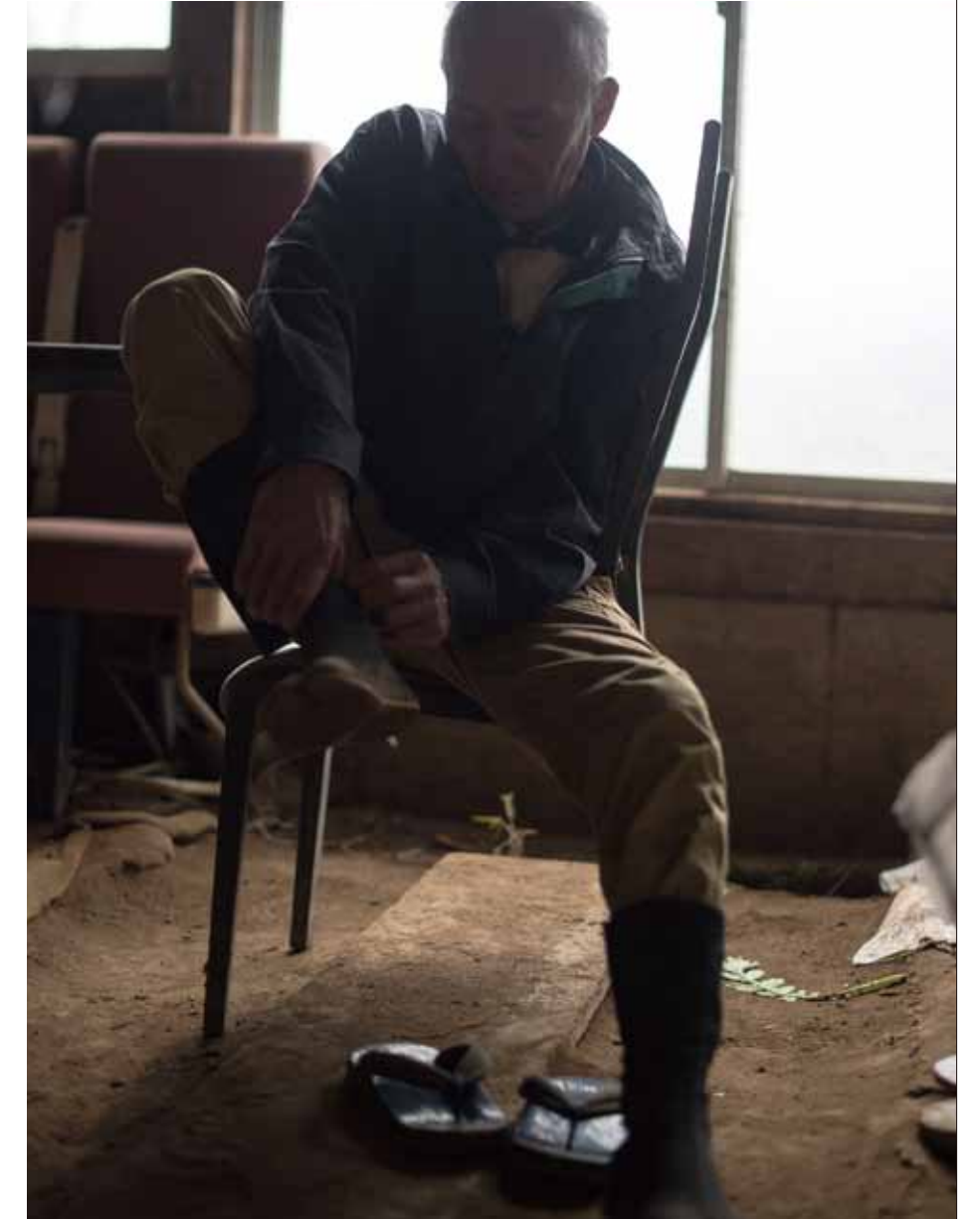
伝えたい声は、
生産者の想い

【ヴォイス】 / #51 / APRIL 2013 / www.oisix.com

齋藤完一さん【千葉県】



Oisix
おいしくす



繰り返す。自然の中では呼吸を整え
ると体が安まるんだ」

今年で 63歳になった
完一さん。長く農

業を続けてきたからこそやりたい
ことがある。それは、子どもたちに
伝えていく、ということ。農園では
頻繁に幼稚園や小学校の体験学習
を受け付けており、子どもが色々体
験できるようと、作物も色々育て
ている。子どもはね、土の上に立た
せると教えずとも自分でおもし
ろさを見つけてずっと遊ぶ。本能が
騒ぎ出すんだらうね。親がびつくり
するんだよ。え！この子こんなに遊
ぶの？こんなに野菜食べるの？っ
て。土のやわらかさがクッションに
なって、居心地がいいし、見たこと
もない虫もたくさんいる。とにかく
子どもには経験が必要だと思う。梓
にはめっちゃいいよ」

人との 付き合いを何よ
り大事に、そし

て楽しみに生きる完一さん。「この
場所をみなさんに提供しているの
は、ここを第二の田舎だと思ってい
たいから。最近は核家族化して
いて、人とのつながりが希薄になっ
てきているけど、みんなが自分には
田舎があるんだって思えたらそれ
はこころの豊かさになるよね。もっ
と直接的な、顔と顔を合わせた付
き合いをしたいんだ。それが楽し
いから農業はやめられない。腰は
痛いけどね」

仕事が終わって、完一さんは桜の木
の下で大好きなお酒を飲んでた。ま
だうまく鳴けないウグイスの子の
声が今日のBGM。ふとゆるんだ表情
は、やさしいものだった。

VOICE へのご意見・ご感想はこちら voice@oisix.co.jp

バックナンバーはこちら <http://www.oisix.com/voice>



<http://www.oisix.com>

発行 / オイシックス株式会社 ディレクション / 末永なつ子 アートディレクション / 福岡智美 写真 / 木村文吾 取材・文 / 田美智子

齋藤完一さん【千葉県】



1. 棒を土にさして笑う完一さん。人気の甘いにんじんもこの土から生まれた。2. 3年前から自生するようになったのらぼう菜3. 自慢の堆肥場。発酵しているのでは60℃以上にもなる。



1



3



2



田舎があるんだ
その安心感が
人の心を豊かにする



千葉県山武市

畑には 一面、黄色が広がっていた。千葉県は成田の隣、山武市で農業を営むのは齋藤完一さん。春先の今、じゃがいもの種手を植え、かぶや大根の種まきをし、菜花やにんじん、ミニ大根などの収穫をしている。

完一さん

がこだわるのは土づくり。2m近い棒を畑に刺すと、あっという間に吸い込まれていった。土の中にたくさん微生物を育てなければこれほど空気を含んだふかふかのものにはならない。化学肥料を使わず、長い時間をかけてフルーツの皮やコーヒー殻などを入れた、オリジナルの調合で作りあげた有機肥料が畑をここまで育てた。有機農業を始めて5年くらいは苦勞の連続だったと完一さんは語る。「有機の漢字は、勇氣の方が正しいんじゃないかって思うよ。そのくらい考えや農法を変えることは大変だった。でも続けるほどに考え方がどんどん変わっていったし、より勉強するようになった。ガンや東洋医学の研究をしている方の講演を聞いたりして体のことをより考える機会がものすごく増えた。それが今の自分のスタイルにつながっているんじゃないかな」

完一さんと一緒に畑を歩くと土への感謝の言葉があふれ出す。「種を植えるときにじいっと土を見つめるだろ？そうするとその地の力をすごく感じるんだよね。同じ作物を育てていても、自分は大地に感謝しながらその思いを込めて育てる。そうすると味が全然違ってくるんだよ。そんなことないでしょって思うでしょ？でもね、思いを込めることで仕事が丁寧になるし、相手（作物）のことがよく見えるようになるんだ」

腰を

かがめ、沸き立つ土のにおいをかぎながら種をまいていく。「農作業に大事なことはリズム感。1、2、3とテンポ良く進むと体と畑のバランスが良くなる。疲れても座らないこと。太陽に向けて頭をピンと張って一気に空気を吸う。吐いておなかを引っ込めたらそれをまた2回